

玉縄城 まちだより

発行者：玉縄城址まちづくり会議

荒井 章

TEL&FAX 0467-45-7411

<http://www.48.tok2.com/home/tamanawajyo>



玉縄城築城500年記念事業 玉縄城鳥瞰図



改修された七曲坂



植木第1号市民緑地 太鼓櫓址に完成

玉縄城址太鼓櫓址に植木第1号 市民緑地が誕生。4月4日、近隣住民、町内会代表、副市長、当会の会員による開設式を行いました。玉縄城フィールドミュージアムへ、城址周辺の歴史と緑を守り活かす当会の5年越しの活動が一つ実ったものです。12月に整備が完了した歴史の道七曲坂とともに、玉縄城を偲ぶ「登城コース」の主要箇所の整備も整いました。

**玉縄城緑地愛護会が発足
次の市民緑地をめざす**

今後は町内会住民と当会の有志がつくった玉縄城緑地愛護会が「アダプト整備」と一体となつて市民緑地と七曲坂の美化清掃に当る一方、城址周辺の次の市民緑地をめざす活動にも入ります。

**第6回総会
新副会長に兵藤芳朗氏**

4月14日、玉縄城址まちづくり会議第6回総会が開催され、役員人事として、新副会長に従来の田中八郎氏、正木重郎氏に加え、前副市長の兵藤芳朗氏が就任。新理事として中村省司氏、澁木嘉孝氏、

**歴史と緑を守り活かす
玉縄城フィールドミュージアム**

小林光男氏、寺口順子氏、森靖子氏が就任しました。当会は平成24年度から始まる鎌倉市総合計画、後期実施計画に連動させて、玉縄のランドマーク玉縄城を中心とするまちづくりへ、あらたな活動計画を発表しました。

玉縄城鳥瞰図もうすぐ完成

当会理事の大竹画伯によるあたらしい玉縄城鳥瞰図がまもなく完成します(写真)。ふるさと館に展示するほか、さまざまなイベントにもお目見えします。

**玉縄城築城500年祭に
当会の実現力を示す**

この6年、当会は500年祭をめざし活動してきました。実行委員会をつくり、オール玉縄のまつりの土台を築いてきました。今年は実行委員会に協力し当会の総力をあげて500年祭成功のために努力を傾けます。鎌倉まつりで我々の武者行列が演じたような「抜刀！」のスピリットでいきましょう。玉縄城を偲ぶ「登城コース」の装飾作りにもご参加をお待ちしています。

「玉縄城址まちづくり会議」の活動
2011(平成23年11月～24年4月)

＜玉縄城址公園化事業＞
・市道七曲坂11月完成
・月例アダプト七曲坂の美化整備
・太鼓櫓址「市民緑地」完成

＜玉縄ふるさと館事業＞
・多くの団体見学者に対応
・小学生の社会科学習8校案内
・寺子屋雛祭りお話し会
・毎月女性会員による古民家清掃

＜アカデミア文化事業＞
・連続セミナー第12回
歴史講座開催
「快元僧都記の世界」伊藤一美氏
・学習センター郷土資料コーナー
城址東側発掘写真と復元された「逆井城」(玉縄城四代城主氏繁の作った城)の写真、北条五代と玉縄城主の資料などを展示

＜玉縄城築城500年祭＞支援
・玉縄祭で早雲公の装束で挨拶
キャラクタ販売を進める
・玉縄城を偲ぶコース企画のつめ

＜企画広報担当事業＞
・市との協働事業推進を継続
・鎌倉市観光課と「かまくらの道」の改定作業。玉縄ふるさと館で配布
・玉縄城ガイド勉強会を進める
・広報紙「玉縄城 まちだより」9号

第14回鎌倉市民活動の日
フェスティバル
□5月19日(土)～20日(日)
さらに鎌倉一階に五〇〇年祭を祝して玉縄コーナーを開設。玉縄城の素晴らしさをパネルで紹介します。
20日 10:30から地下ギャラリーでは「玉縄城の紹介」。映像で玉縄城を偲ぶコースをご覧になれます。20分ごとに3回映します。

◆**玉縄歴史アカデミア**
連続セミナーNo.13
「北条早雲と鎌倉そして玉縄城」
黒田基樹氏(駿河台大学法学部教授)の基調講演
□6月30日(土)14:00
□会場:清泉女学院中学高等学校 階段教室
□鼎談:戦国の魁―北条早雲
北条早雲論の激突が期待される。そして鎌倉を守る戦国北条氏の最初の支城「玉縄城の真実」もわかる。

秋のカデミア予告
玉縄歴史アカデミアNo.14を10月に清泉女学院で開催。



七曲坂の野草④「シャガ」
七曲坂のシンボルツリー「一本杉」の裾一帯に控え目に咲くアヤメ科の白い花

□参加費:大人300円
問合せ・団体見学申し込みは玉縄城址まちづくり会議
☎Fax 0467-457411
玉縄ふるさと館
□寺子屋篠笛演奏会
□7月7日(土)18:00
□参加費:大人300円
問合せ・団体見学申し込みは玉縄城址まちづくり会議
☎Fax 0467-457411

玉縄思い出写真館

北條秀司さんとご家族

昭和23年(1948年)頃の柏尾川河畔
川の向こうには、料亭(山源)が見える。



【ひと言】
北條美智留さん
終戦後父は小田原から玉縄へ越してきました。複数の舞台の演出で東京や関西に行くのにも便利で、自然豊かなこの土地が大変気に入りました。柏尾川には、桜の木が続いていました。



今年、北条早雲公が相模の国、玉縄の地に玉縄城を築いてから、500年という歴史的にも意義深い記念の年を迎えます。

現在、玉縄自治町内会連合会をはじめとする地域の皆様が主体となり、玉縄城築城500年祭実行委員会を組織して、今年の11月に予定されている「玉縄城築城500年祭」の実施に向けて様々な取組みをされています。鎌倉市におきましても、玉縄城築城500年祭の支援を共催事業として、引き続き広報活動や関係行政機関との調整などの支援協力を行っていきたいと考えています。

今年の1月には、世界遺産登録を目指す「武家の古都・鎌倉」の推薦書がユネスコに正式に提出されました。

これにより登録に向けて大きく前進したものを考えていますが、この大きな節目を迎えられましたのも、多くの市民の皆様のこれまでの活動とともに、「武家の古都・鎌倉」の構成資産となつている社寺や山稜部をこれまで守り伝えていただいた先人たちの努力・功績があつたからこそと考えています。

世界遺産登録は、鎌倉の貴重な歴史的遺産を未来永劫、後世に守り伝えるとともに、まちづくりの一つのきっかけになるものと考えています。が、「玉縄城築城500年祭」の目的も地域が一体となつて歴史と遺産を次世代に引き継ぎ、地域の活性化を推進することにあると理解しており私の考える世界遺産登録の考え方と相通じるものがあると感じています。

玉縄城址は、城址を中心とする丘陵の緑と歴史が玉縄地域の象徴的存在となり、地域の宝物であると考えています。この宝物を次世代を担う若者たちにしっかりと引き継ぐために、鎌倉市は、今後も、地域の皆様が主体となつた取組みを支援してまいりますので、よろしく願いたします。



玉縄城主、北条綱成、氏繁、氏勝の墓石と言われている「ぶつけり仏」が、山の上から龍寶寺本堂脇に移設されました。

歴史シリーズ 一〇 うじかつ 玉縄城主 北条氏勝

徳川家康が江戸入りして間もなく、北条氏勝は下総岩富領一万石を与えられ、譜代の列に加えられた。

天正十八年(1590)八月には岩富城(千葉県佐倉市)に入り、翌年初冬より秀吉の太閤検地に伴い、岩富領の検地を行つている。氏勝はこの頃、家督を嫡男善九郎氏明に譲っているが、天正二十年(1592)(十二月八日に文禄と改元)秀吉は朝鮮出兵を諸大名に伝え、文禄の役が始まった。

氏勝は家康配下の先兵として四月に九州肥前国(現・佐賀県東松浦郡鎮西町)名護屋城に着陣。松浦半島波戸岬先端に近い位置に陣営を構え渡海はしなかった。その後、文禄二年(1593)まで一年余りの参陣であつた。そのために自分の領国経営が充分に出来ない状況であつた。

慶長元年(1596)に入り、嫡男氏明が病没したため、氏勝が再度当主となつた。慶長五年(1600)家康が会津の上杉景勝を攻めるため下野国(現・栃木県)小山に出陣した。その時も、氏勝は弟の繁広と共に参陣し、関ヶ原の合戦には家康に従つて三河岡崎城、尾張犬山城を守り、

中山道を進む徳川秀忠に御膳(食事)を饗応し、馬を献上して、羽織を賜り、合戦後家康の入洛にあたり丹波亀山城を守っている。

慶長十三年(1608)九月、この頃氏勝は病に罹つていたようだが、領内の真言宗・寶金剛寺(現千葉県佐倉市直弥)に七条袈裟を寄進している。

慶長十六年(1611)三月二十四日、氏勝は岩富城内にて帰らぬ人となつた。波乱万丈の五十三年の生涯であつた。遺骸は寶金剛寺に葬られ、法号は

『清覚院殿恵公居士』
(寶金剛寺位牌)

『上嶽院殿角翁良牛大居士』
(龍寶寺位牌)

『法輪院殿密雲常観大居士』
(北条家過去帳)

以上三つの位牌がある。
(以下次号に続く)

汗かき・知恵出し・声援で「玉縄城址まちづくり会議」に参加しませんか。お問い合わせはお近くの会員まで

インタビュー～玉縄万華鏡～

戸部橋から玉縄城へ
竹林の北條邸

北條 美智留さん
(ほうじょう みちるさん・岡本)

―お父様はどんなご縁で玉縄に住まわれましたか―

父、北條秀司は大阪の生まれですが、始めは岡本綺堂氏に師事して、勤めながら執筆活動が続けていました。戦争末期に箱根に疎開し、終戦後小田原に下り、脚本と演出のため東京に近い大船に来ました。自然豊かなこの土地が大変気に入つて喜んでいました。歌舞伎座や新橋演舞場に行くのにも、関西に行くのにも、便利になり充実した生活でした。

―昭和20年代の玉縄はどんな所でしたか―



舞台を演出中の北條秀司氏

家に帰ると、周りは田んぼばかり、庭には池があり、白サギ、カワセミなどがよく来ました。父は自然のままの庭が好きで沢山の野草を植え、四季の彩りを楽しんでいました。歩くのが好きで毎日散歩をしていました。私と一緒に玉縄城址に行ったときには、梅林があつたり、堀の様なものがありました。早朝に仕事をするので、夕食は必ず五時、高カロリーの美味しいものが大好きで、九三歳まで健啖家のままでした。

―書斎から廊下まであふれた資料は貴重なものが多いのでは―

父の著書や資料は東海大学が面倒を見てくださつて全部図書館に収蔵されています。

―俳優の緒形拳さんがよく訪れていたと聞きますが、どのようなご縁でしたか―

私が東京の俳優養成所で緒形の次兄と同期になり、弟も後でよく来るようになりました。辰巳柳太郎に心酔して新国劇に入りたいと言うので、父に紹介してもらい新国劇に入りました。

新人なので地方公演に行けない時はこの家に寄宿することになり、父に言われて沢山の本を読まされ、大変



「ゴドーを待ちながら」の楽屋で緒形拳さん(左)と

玉縄城築城500年祭の予告

- ☆10月初め～11月末
・玉縄城を偲ぶコースへのウォーキング
- ☆11月4日(日)
・(午前)法要 龍寶寺本堂
・(午後)式典と和のコンサート 清泉女学院
- ☆11月10日(土)
・パレード 植木小学校～玉縄小学校 玉縄城築城500年祭実行委員会



500年祭ご登城コースとして、七曲坂に冠木門をつくり、幟をはためかせます。

玉縄城築城500年祭のみどころ
玉縄城を偲ぶコース その二

七曲坂から太鼓櫓址へ

七曲は、玉縄城東側の防備の要衝でした。遺構調査では柏尾川から続く堀の址も出ています。七曲入口には、鎌倉の寺社や玉縄城の建造を担う玉縄番匠の家々が並び、坂の手前には玉縄城四代城主北条氏繁夫人「七曲殿」の屋敷があつたとされています。当時の生活道具も発掘されました。諏訪壇を頭上に見て急峻な七曲坂を登りきると、左手に市民緑地として整備された太鼓櫓址。その南側下に煙硝蔵址、東側下には七曲古道も望めます。